後

二年　画数 9　筆順

オン　ゴ・コウ

クン　のち・あと・うし＝ろ・おく＝れる

成り立ち

みち（行）のかたちをあらわした〝彳〟と、幼児のいみの〝幺〟と、足のかたちをあらわした〝夂（止）〟とを組み合わせてつくった字です。

「みちをいく〝幼児の足〟は〝おくれる〟」ということで、〝おくれる〟〝あと〟になることをあらわした字です。

〝あと〟ということで、〝のち〟〝うしろ〟といういみにもつかわれます。

〔ゴは呉音で、コウは漢音〕

使い方

▽前半のしごとがおわったので、午後から後半のしごとにとりかかります。

▽今後は食後のくすりだけのめばよろしい。

熟語例

▽午後（午はひるの十二じ。「ひるの十二じより後」のこと。〝ひるすぎ〟）

▽今後（今から後。〝これから〟）

▽食後（食事の後。食事をした後）

▽後日（後の日。〝後になって〟といういみ）

▽後世（後の世。後の時代）

▽後退（後も退も〝しりぞく〟いみ。〝しりぞく〟こと。後にさがること。）

▽後援（後ろから援助すること。後ろだて）

▽後生（「後れて生まれる」こと。じぶんより後れて生まれてきた人のこと。）

▽後楽（「後れて楽しむ」こと。「天下の楽しみに後れて楽しむ」ということばからとったことば。水戸黄門が庭園にこのことばをとって〝後楽園〟と名づけました。）

語

二年　画数 14　筆順

オン　ゴ

クン　かた＝る＝らう

成り立ち

むかしの〝わたくし〟といういみのことばの〝吾（訓は〝われ〟）〟と〝言〟とを組み合わせてつくった字です。「わたくしが言う」といういみの字で、〝かたる（話をする）〟ということばをあらわした字です。

また、〝国語（日本語）〟〝英語〟〝中国語〟というように〝ことば〟といういみにもつかわれます。

使い方

▽せかい中には、やく三千の言語がある、といわれています。

▽あの人の語調は、はっきりしていて、わかりやすい。

▽おかあさんは、ぼくが小さいとき、いろいろなおとぎばなしを語ってきかせてくれました。いまでも、そのうちのいくつかを、おぼえています。

▽わたしは、じぶんで物語をこしらえて、たのしんでいます。いままでに『ミイとピイ物語』や、『ようせいムックのぼうけん』や、『バナナボート物語』などをつくりました。

▽語尾をはっきりということは、たいせつだが、あまりつよすぎても、ききぐるしい。

熟語例

▽言語（ことば）

▽語調（ものを言う調子）

▽大言壮語（いばった、大げさなことば。「あんなに大言壮語をはくのは、見ぐるしい」などといいます。）

▽語尾（ことばのおわり）